

さいたま市長 9月定例記者会見

平成21年9月16日(水曜日)

午後2時30分開会

○ 進 行 お待たせいたしました。記者クラブの皆さん、定例記者会見にお集まりをいただきましてありがとうございます。

今回の記者会見から、このような会場のレイアウトで進行させていただきますので、よろしくご理解のほどお願いいたします。

それでは、ただいまから定例記者会見を始めさせていただきます。

幹事社の読売新聞社さん、よろしくお願いいたします。

○ 読売新聞 よろしく申し上げます。9月の幹事社、読売新聞さいたま支局です。

では、きょうの市長のほうからの発表事項、よろしくお願いいたします。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。市長の清水でございます。

定例記者会見を始めさせていただきたいと思います。本日の発表議題は、2件でございます。

初めに議題1、「発達障害者支援センターを開設します」についてご説明をいたします。

発達障害者支援については、平成17年4月に発達障害者支援法が施行され、障害特性やライフステージに応じた支援を行うことが国・自治体・国民の責務として定められ、同法第14条に発達障害者及びその家族を支援する総合相談窓口として発達障害者支援センターの設置が位置づけられております。

発達障害とは、資料の2にありますように、自閉症やアスペルガー症候群など、コミュニケーションや社会性などに課題が見られることが多く、人の意図や感情を読み取ることが苦手であったり、興味関心の偏りや決まったパターンを好むなど物事への固執性を持つ場合もあります。

しかし、一方ですぐれた集中力を発揮したり、独特の感性を持ち、行動的であるなどの特性もあります。

こうした特性は周囲に理解されにくく、時としていじめや、からかいの対象になることもあります。

また、情緒不安や不登校、ひきこもり、就職した後も離職を繰り返すな

どの深刻な問題につながる場合も少なくありません。

そのため、本市では、平成21年10月1日に発達障害者支援センターを、中央区鈴谷にあります障害者総合支援センター内に設置することにしたしました。

(パネル提示)

こちらが本市の発達障害者支援システムのイメージ図でございます。お手元にも資料があるかと思いますが、乳幼児期。乳幼児期は主にですね、総合療育センターひまわり学園が早期診断、早期療育の拠点として、幼稚園や保育園への支援も含めた早期の支援を行っております。

学齢期。学齢期におきましては、特別支援教育相談センター、そして特別支援ネットワーク連携協議会などを中心に児童生徒、家庭、学校への相談支援を行っております。

発達障害者支援センターは、乳幼児期から成人に至る各ライフステージでこれらの関係機関と連携を図りながら適切な相談支援を行うことになっておりますが、特に、今まで相談支援の場なかった、主に18歳以上の方々につきまして、このセンターが拠点となり、生活や就労に向けての支援を展開していくことといたします。

事業の内容は、資料をごらんください。

各種相談支援のほか、学校や病院、ハローワークなど保健、医療、福祉、教育、労働など関係機関との連携、調整。発達障害に関する知識の普及。関係機関の代表が、具体的な支援内容の検証を行いながら、本市の支援体制強化を図るための連絡協議会の開催などとなっております。

なお、相談時間は月曜日から金曜日までとし、面接相談は予約制となります。

(パネル提示)

こちらが建物の外観でございますが、保健福祉局福祉部障害者総合支援センターに、新たに発達障害者支援係を設けて、担当職員として、臨床心理士、精神保健福祉士、社会福祉士の専門職員3名を配置しております。

議題1は以上でございます。

続きまして、議題2、「咲いたまつり2009の開催内容について」ご説明をいたします。

(パネル提示)

今回で7回目を迎えます咲いたまつりは、10月10日土曜日、11日曜日の2日間にわたりまして、さいたまスーパーアリーナ及びさいたま新都心駅西口周辺で開催をいたします。

メインイベントとしては今回、市民相互の融和と交流に加え、観光客拡大を図るため、JTBオリジナルイベントであります「杜の賑い」を11日曜日、「The MATSURIサミット」で午前と午後の2回公演をいたします。

咲いたまつりとしては、初めて有料にいたしました。市内はもとより、市外、県外のたくさんの方々に楽しんでいただきたいと考えており、現在、全国のJTB各支店、セブンイレブン、ファミリーマート、ローソンなどにおきまして販売中であります。

その他のメインイベントとして、THE登竜門、YEGフェスタ2009を行います。

THE登竜門では、さいたま市の歌「希望のまち」を歌うユニットのオーディションとストリートミュージシャンのコンテストを行います。

YEGフェスタ2009の中では、サイエンスショーやプロスポーツ選手とのふれあいなどを楽しめるほか、さいたま市の産業観光をPRする、さいたま小町の選考会を行います。

さらに、サブイベントとして、ダンスや音楽などのパフォーマンスを披露する「市民ステージ」や、本格的なジャズライブを行う「JAZZの祭典」、様々な種類の屋台やフリーマーケット、観光物産展などでお食事やお買い物もお楽しみいただけるほか、様々なイベントを開催いたします。

また、サブイベント会場となるけやき広場には、さいたま市の伝統産業である岩槻の人形、大宮の盆栽、浦和のウナギのPRブースを出展いたしますが、その一つである浦和のうなぎを介し、特別参加として浜松市、岡谷市、三島市の物産観光PRを行う予定となっております。

特に浜松市は、市のマスコットキャラクターで赤塚不二夫さんの原作のウナギイヌなども2日間参加を予定をしております。楽しさも話題性も一層増すものと考えております。

また、咲いたまつりの開催を記念したデザインの宝くじを本日16日か

ら29日まで販売をしております。

この「咲いたまつり」は、市民の皆様の参加によって築き上げられていくお祭りです。多彩な市民参加イベントを、多くの皆様楽しんでいただきたいと思いますと考えております。

「咲いたまつり2009」本会場におきましては、開催本部にプレス受付を設けますので、取材のほうよろしくお願いを申し上げます。

私からの議題説明は以上でございます。

- 読売新聞 ありがとうございます。
 市長からの発表案件について何か質問のある方、いらっしゃいますでしょうか。幹事社からは特に。フリーで質問していただきたいと思います。
- 埼玉新聞 よろしいですか。埼玉新聞です。
 発達障害者支援センターについて伺います。年間の利用者数の見込みなどをちょっと聞かせていただきたいんですけども。
- 事務局 障害者総合支援センターです。
 利用者数につきましては、年間相談支援だけでおよそ200名程度を考えております。
- 埼玉新聞 面接相談ということですか。
- 事務局 はい。面接相談で約200名ということで考えております。
- 埼玉新聞 法に基づき設立したということでよろしいのでしょうか。
- 市長 はい。
- 埼玉新聞 これ設立の基準は、要するに政令市に1つというような基準でよろしいのでしょうかね。
- 事務局 国の通知により、要綱によりまして定められております。今現在、各都道府県に1カ所、政令指定都市に1カ所ずつということで国のほうで整備を進めております。
- 埼玉新聞 ありがとうございます。
- 読売新聞 ほかに何かありますか。
- 埼玉新聞 続いてよろしいですか。

 「咲いたまつり」についてなんですが、今回からその初めて有料にされたということですけども、「MATSURIサミット」のほうですか。これ有料にされた理由をお聞かせ願いたいんですけども。

- 市長 民間企業の「JTBブランド」であります「杜の賑い」を活用して、観光客を誘致するのを中心的な位置づけとして考えておりましたので、今回は一定の受益者負担をお願いしようということになりまして、有料とさせていただきます。
- 埼玉新聞 もうチケットのほうは発売されているわけですね。
- 市長 はい、しております。
- 日本経済新聞 日本経済新聞です。
その「JTBのイベントの「杜の賑い」に乗ることで、その昨年との違いというのは、何か催し物のその内容としてかなり違ってくるということなんですか。
- 市長 違ってくる？
- 日本経済新聞 その「JTBの「杜の賑い」」に活用することで、その去年までと内容がかなり違ってくるものなんですか。
- 事務局 観光政策課でございます。
「咲いたまつり」につきましては、今回で7回目を迎えておりまして、昨年度日本のまつりということで全国の祭りを招聘いたしました。今回の「杜の賑い」については「JTBのブランド」としては114回目を迎えるものでございますが、それをさいたま市でやることによってですね、全国からお客さんに来ていただくということで行うものでございます。
内容といたしましては、各祭り団体がですね、光と音と、そういった舞台効果によりましてですね、全国的な祭りを展開するというところでございます。
- 市長 これまでは、どちらかというと、また地域交流という、いわゆるさいたま市が合併をして、さいたま市を1つにしていこうと。そのシンボルとしてこの祭りが行われてきたんですが、今回はある程度その一体感ができてきたのではないかとことを前提にですね、もう少し観光としてお祭りを盛り上げていこうというような発想の中で有料化をさせていただき、「JTBの「杜の賑い」」とタイアップをさせていただいたということですね。
- 埼玉新聞 「咲いたまつり」、昨年までの「咲いたまつり」というのは、大体会場の外でも楽しめるようなパフォーマンスみたいなものがあったかと思うんですけども、今回それはあるんでしょうか。

それと、もう一つ、各区で何か竜の形をしたフロートを出していたと思うんですが、今回もそういった各区オリジナルの山車みたいなものが出るんでしょうか。

○ 事務局 今回もですね、けやき広場ですとか、サンクンプラザ等におきましてですね、従来どおり外での催しというものがございます。

それと、もう一点、竜のフロートにつきましてはですね、警察等からの指導あるいは耐用年数が過ぎているということもございまして、今年度から出場いたしません。

○ 埼玉新聞 済みません、11日のパレードというのは、どういったものがパレードされるんでしょうかね。

○ 事務局 「杜の賑い」に出演していただいた団体を中心にパレードいたします。

○ 埼玉新聞 済みません、ごめんなさい、具体的にはどういうものなんでしょう。

○ 事務局 杜の賑いの出演団体でございますが、県外10団体、さいたま市内のイベント4団体、それらの方々がパレードを行っていただくということでございます。

○ 埼玉新聞 済みません、どういう、例えば見て楽しいものなんでしょうかね。

○ 事務局 そうですね、「MATSURIサミット」自体が有料になりますので、パレードで有料チケットをお求めにならなかった方にもごらんいただくということで、各団体がですね、それぞれの演目を演じながらパレードを行っていただく。非常に楽しいイベントになるかと思えます。

○日刊工業新聞 日刊工業新聞と申します。

来場者数は、去年より多く見込んでいらっしゃるということなんですけど、大体今年は何れぐらいを見込んでいらっしゃいますか。

○ 事務局 今年度は35万人を見込んでおります。ちなみに、去年は日本のまつりというのがございまして41万人ございました。

○ 埼玉新聞 これ2日間ということによろしいわけですね。

○ 事務局 そうです、はい。

○ 読売新聞 ほかありますでしょうか。何かありましたら、ではあとは個別でお願いします。

それでは、幹事社質問のほうに移らせていただきたいと思います。

幹事社質問は3点。事前にもお伝えしてありますが、いま一度質問させ

どで閣僚人事といいますが、大臣になる方々が予想されておりましたが、政治主導の実現に向けて、各省庁等に精通された方がしかるべき大臣になるものと予想されている中で、党首経験者あるいは実績や知名度を兼ね備えた方が多くて、マニフェストの実現あるいは山積する難題や正面から立ち向かっていこうとする鳩山首相の強い意志を感じる、大変重厚などいいますか、本格的な布陣であるというふうに考えております。

私自身のスタンスも含めた要望や期待ということでございますが、新政権に、一国民としてはですね、非常に閉塞感があった、この社会状況の中をですね、こうした国民の手で政権交代が行われたということで、ある意味では非常に大きな期待感も持っています。

さらに、新政権におきましては、国民の負託にこたえて、税金の無駄遣いを一掃し、活力あふれた幸せを実感できる日本にしていきたいというふうに思っております。

また、マニフェストの実現に当たりましては、ぜひ地方の意見にもしっかりと耳を傾けていただきたいとも思っております。特に地方自治体の長の立場としては、地方分権型社会の実現、地域主権の確立に向けた取り組みに期待をしております。私としては、市民生活、市政運営に混乱を来さぬよう国の動向を注視しつつ、適時適切に対応してまいりたいと考えております。例えば民主党のマニフェストの実現のため、新たに発生する財源等は、国の責任において確保するよう求めていくことも考えられます。

いずれにいたしましても、鳩山首相の強固なリーダーシップのもとに、我が国を最良な方向へ導いていただきたい、強く期待をするものであります。

次に、2番目のですね、9月定例議会に提案を検討されている副市長人事及び8-1A街区のことについてお答えを申し上げます。

まず、副市長人事からですが、副市長人事につきましては、さきの代表質問においても答弁をさせていただきましたが、実務に精通をした行政経験者及び民間企業での経験を生かして市政のさらなる活性化を図るため、民間出身者を選任していきたいと考えており、現在行政経験者につきましては、行政の現場での長年の経験や知識を有する市職員や職員OBの方々を中心に人選を進めているところでございます。できれば今議会中に提案を

させていただきたいと考えております。

なお、民間出身者である副市長の選任につきましては、状況を見ながら、一、二年のずれといたしますか、そのあたりをめどに選任をしていきたい、このように考えております。

次に、8 1 A街区の件でございますが、さいたま新都心第8 1 A街区整備事業は、埼玉県、都市再生機構及び本市を主催者、公募により選定されました民間事業者を実施主体として、基本協定書等の締結を経て、進められてきた経緯がございます。

現在は、新たな導入機能について、さきの検討委員会の報告を踏まえながら、主催者や民間事業者との協議、調整を重ねているところでございます。

市としては、速やかな事業進捗に向けて、本9月定例議会での議案提出を目指し、最大限努力をしているところでございます。

次に、3番目の自己評価についてでございます。

まず、総合振興計画実施計画の達成状況についてでございますが、これは平成20年度に計画期間の満了を迎えた前実施計画255事業について、平成17年度からの4年間の実績と、設定した目標に対する達成状況を取りまとめたもので、平成20年度末の計画目標に対し、おおむね達成されていれば達成、おおむね7割以上達成されていれば一定の成果あり、それにも達していないものは未達成として判定をいたしております。

達成状況の判定に当たりましては、具体的な数値目標については、原則として目標に対する達成率によって判断を行っており、また推進、促進といった目標につきましては、事業実績等により判定を行っております。

一部事業について甘い評価だといった解釈が生じていることは承知しておりますが、例えば埼玉高速鉄道（地下鉄7号線）延伸促進事業につきましては、この4年間で延伸事業化の目途がつくには至らなかったものの、一方で最終ゴール地点に向けた検討の進展も着実に図られたことから、これらを総合的に勘案して一定の成果ありと判定をしたものです。

このように、達成状況は市民の満足度や事業の最終目的に対して直接判定をしたものではなく、先立って発表されました前市長のマニフェスト実績評価との整合性、あるいはこれまで毎年公表してまいりました進捗状況

との継続性などを踏まえて評価したものでございます。

これらの事業については、今回で完結させるわけではなく、引き続き本年度から始まりました新実施計画に位置づけており、今後の進行管理につきましては、市民の皆様にも納得いただけるよう、より透明性、公平性、客観性を高める工夫を検討してまいりたいと考えております。

なお、新実施計画につきましては、前実施計画と比較して、数値目標も含め具体的な目標が多くなっており、より客観的に判定しやすいものと考えております。

次に、事務事業評価についてのお尋ねにお答えをいたします。

現行の事務事業評価につきましては、自己評価であるため、とかく現状を肯定する評価結果に陥りがちで、事業の見直しにつながりにくい側面があることを私も認識をいたしております。

今後は、行財政改革推進本部において、評価方法の見直しを検討し、内部評価だけでなく、さいたま市独自の第三者による評価の手法を研究し、公共サービスの質の向上に努めていきたいと思っております。

私は、区役所が行政サービスのかなめであると考え、区民満足度を向上させるために「暮らし応援室」を設置をいたしました。今後は区役所あり方見直しプロジェクトチームでの見直しや改善を検討し、これまで以上に区役所窓口のサービスの向上や改善に努めていきたいと考えております。

いずれにいたしましても、ご指摘をいただきましたそれぞれの評価につきましては、行政改革の視点から評価を実施する事務事業評価と、いかに事業を進捗させていくかといった進行管理の視点から実施する評価とは多少性格が異なるものと考えております。

以上です。

○ 読売新聞

では、幾つか質問させていただきます。

最初の新政権に望むことなんですけれども、民主党のマニフェストについて、地方分権ということのほかには何か気にかかっているところというのがありますか。

○ 市長

そうですね、やっぱり道路特定財源(自動車関連諸税の暫定税率の廃止)の問題ですかね。

○ 読売新聞

どのような。

- 市長 現状としては、道路特定財源（自動車関連諸税の暫定税率）によりまして52億円の費用を予算措置をさせていただいておりますので、そういった特定財源がなくなった場合にですね、こういった形で財源措置がされるのかというようなことについてはですね、大変興味深く考えております。
- 読売新聞 それから、2点目の未提出議案の関係なんですけれども、副市長、できれば今議会中というふうな表現でしたけれども、今議会中に提出しない可能性もあるのですか。
- 市長 基本的には、提出をするつもりでおります。
- 読売新聞 何人分ですか。
- 市長 一応1名ないし2名、できれば2名という提案をさせていただくつもりでいます。
- 読売新聞 できれば2名。
- 市長 はい。
- 読売新聞 もう最後のほうになりますかね、時期は。
- 市長 そうですね。
- 読売新聞 あと、8 1 A街区については、提出する議案はどのような、何の議案ということになりますか。
- 市長 財産交換の議決と、あと補正予算ですね。新たな導入機能検討に要する補正予算という議案になると思います。この2つの議案を、出すとすればそういうことになります。
- 読売新聞 これも出せる方向ですか。
- 市長 できるだけ出したいと思っておりますが、この部分について言うと、県、都市再生機構、あるいは民間事業者の皆さんと一緒に事業をやっておりますので、しっかりと協議、調整を進めながらやっていかなくてはいけない部分もありますので、その辺を踏まえながら提出をしていきたいと思っております。
- 読売新聞 それでは、各社フリーでお願いします。
- 日本経済新聞 日本経済新聞です。先ほど新政権に望むことという中で、市長が市政運営に支障を来さないようなということをおっしゃっていましたがけれども、例えば民主党は、子ども手当をこれから出すというふうに言っていますよね。支給する主体としては自治体になってくると思うんですけれど

も、定額給付金みたいに、かなりばたばたすることも予想をされるわけですよ。例えばこんなふうにしてほしいとか、何か望むことがあれば、注文があれば。

- 市 長 そうですね。今おっしゃったとおりですね、基本的にはマニフェストは、国民の皆さんに信任をいただいて、支持をいただいて、たくさんの応援をいただいて政権ができたわけですから、この実現に向けて取り組んでいただくことは大変重要なことであり、また私たちも期待をしているところですが、一方で私たちのほうは、その事務をどうしても執行する側という部分がありますので、そういう意味では、ご案内のとおり定額給付金等の手続をする基礎自治体、市町村のほうですね、できるだけスムーズな形で実施をしていこうということで、さまざまな工夫をしてきたわけですけど、何とか現状としてはうまくいっているつもりではいますけど、当然子ども手当もですね、どのような制度設計がされるかによって大きく変わってくるので、その辺については事前か、あるいはその大方の形が見えてきた段階の中です。少し私たちからももう少しこういう形をということですね、要望していくというようなことは考えていきたいと思っておりますが、現状としては、まだどういう形で制度設計されて、どういう形でその事務がこちらのほうに回ってくるかがちょっとまだ見えない段階なので、私どもから急にこういうふうにしてくださいというのもですね、制度設計がもうちょっと具体的になった段階で、その辺についても検討していきたいと思えます。

- 日本経済新聞 あと、続けて後期高齢者医療制度の廃止というふうに言われていますよね。これに関しても何かご注文があれば。

- 市 長 導入するに当たっては、大変さまざまなお議論があり、また課題もたくさんあったわけでございますけれども、この間いろんな形でいろいろ検討が進められたり、一部修正が行われてきましたけれども、ようやく少し事務をやっていく部分では、あるいは国民の皆様方にもある程度制度の周知がされて、ようやく少しスムーズな形で理解をされてきている状況もございますので、その中でどういう形でこの後期高齢者制度が廃止になって、新たなそういった保険制度をどのように設計されるのか、これによってもちょっと変わってくると思うのです。また、いつから具体的にですね、そ

れをスタートさせようとするのかということによって状況が変わってくるかと思
いますけれども、十分やはりその辺についてはですね、準備期間、あるいは
は周知期間などをですね、十分踏まえていただきながら実施をしていただ
くということがですね、より混乱を招かなくて、どんなにいい制度であつ
ても、その辺の周知がなされないとはですね、やはり国民にも理解していただ
きにくいというふうになりますし、また執行側もですね、非常にその準備
等々をしっかりとしていかななくてはいけないということもございませ
うので、そんなことをお願いしたいと思っています。

- 共同通信 よろしいですか、共同通信と申します。幹事社質問とは関連のないこと
なんですが、7月にですね、うさちゃんクリーニングという店名で店を出
しているロイヤルネットワークという会社のさいたま市北区にある店舗が
ですね、建築基準法上の用途違反というのをやっています、それで行政
指導を受けたんですけども、その際にですね、さいたま市が市内約350あ
るクリーニング店についても、建築基準法上の用途違反がないかどうか調
査をするというふうに会見で表明されたんですけども、その後その調査の
進捗状況というのはどうなっていますか。
- 事務局 所管課がちょっと同席していないもので、後ほど記者クラブのほうに参
りまして、ご説明をしたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。
- 読売新聞 幹事社質問に関連したことがありますか。それが終わったら、それ以外の
質問に移りたいと思うのですが。それでは、ないようですので、幹事社質
問以外の関係、皆さんご自由に質問してください。
- 埼玉新聞 よろしいでしょうか。盆栽美術館の関連でちょっと伺いたいんですけども、
6月の議会の条例にも美術館の条例出たかと思うんですが、当初盆栽会館
というふうに、当初設立の趣旨の中には盆栽文化の継承のための後継者の
育成ということがあったかと思うんですけども、今回文化の継承という点
ではですね、美術館にもその機能を持たせたほうがよろしいかとも思われ
るんですけども、その辺の見解を、市長の見解をちょっとお聞かせ願いた
いんですけども。
- 市 長 もともとさいたま市はそういった盆栽園さんがですね、多数集積をして技
術力あるいは後継者をですね、育成してきたという経緯もございませ
うので、そういったことも踏まえながら、今ちょうど開設準備委員会が設置をされ

ておりますので、そういった視点も含めてですね、今後の運営方針等についてですね、決定をしていきたいというふうに思っております。

- 埼玉新聞 委員会の中で話し合っていたきたいということ。
- 市長 そうですね。
- 埼玉新聞 文化の継承という意味では、行政がですね、後継者の育成にやはり支援していくというのは大きな力だと思うんですけども、そこはやはり市長主導ですね、旗を振っていただいてもよろしいかと思うんですけども。
- 市長 その辺は、私のほうから申し入れをしておきたいと思います。
- 読売新聞 駒場スタジアムの改修というのに実施計画の今年度予算がついていて、もう実施計画は終わっているというふうに認識しているんですけども、この改修についてまず市長のご意見とか思うところをお聞かせください。
- 市長 これまで公式の陸上競技場としての認定が外されてしまった状況もあり、またサッカーのですね、スタジアムとして、最近はずの試合数は非常に少なくなってきましたけれども、一方で浦和レディース等ですね、アマチュアのサッカーなどの大会も行われておりますけれども、そういった中でピッチのですね、状況が非常に悪いという環境の中で、これらを改善をして、そしてまた子供たちがですね、大会に出て、計測された記録が公認の記録になるということも子供たちのスポーツの意識を高める上でもですね、大変重要なことだと思っておりますので、基本的には改修についてはですね、進めていきたいという考え方を持っております。
- 読売新聞 改修後にどのようにあのスタジアムを役立てていきたいかということなんです。
- 市長 駒場もそうですし、私自身としてはやっぱりスポーツをテーマにしたまちづくりをこのさいたま市で進めていきたいというふうに考えておまして、今スポーツ振興のまちづくり条例も検討を進めています。また、あわせてですね、スポーツに関する振興策なども今より一層充実を図っていこうという中で、こうした施設があることでですね、大会の誘致をしてきたりですね、あるいは子供たちあるいは小中高生を中心としたスポーツをやっている子供たちにとって有意義な場所をよりつくっていくという観点からですね、大いに活用していきたい。公認の競技場になりますので、3種ということですので、全国的な大会は開催できませんけれども、県レベルは

開催ができるんですね。そういったことなども含めて。

- 読売新聞 改修の費用は幾らぐらいが見込まれて、全国レベルの大会が開催できないという陸上競技場にそれが見合っているかどうかということについても。
- 市長 現在精査をしている途中ですけども、概算で約18億3,000万円ということが予定をされております。ただ、今回のですね、調査の中で特に地盤改良工事のところはかなり工事費を削減できるだろう、38%ぐらい工事費を削減がされるだろうということのご提案もございます。また、あわせてそれぞれの改修に係る当初の概算費用をもう少ししっかりと精査をしてですね、もちろんできるだけコストをですね、できる限りかけない方法、あるいはいろんな整備手法なども検討しながらですね、整備については考えていきたいと思っています。
- 読売新聞 38%削減した結果が18億3,000万円。
- 市長 じゃなくて、それをする前にですね。
- 読売新聞 18億3,000万円から38%。
- 市長 そうです。地盤改良工事分が約9億1,000万円です。これの38%が工事費として削減されると。
- 読売新聞 18億3,000万円の38%じゃなくて、9億1,000万円の。
- 市長 1,000万円のということです。
- 読売新聞 補足があれば。
- 事務局 ただいまの18億3,000万円というのは概算でございますが、駒場の工事内容は主に4つございまして、陸上のトラック工事とサッカー場の芝生のピッチ工事、それと陸上競技に要する備品でございます。今削減予定だというのは、肝心の地盤改良工事でございます。当初は、セメントの全面改良を予定しておったんですが、もう少し小さい改良で済ませるとすると約38%削減予定ということでございます。
以上です。
- 読売新聞 セメント全面を使ったときに18億3,000万円という意味ですか。
- 事務局 先ほど申し上げましたように、4つのうちの1の陸上トラックと2のサッカー場の芝生ピッチと4の陸上競技に要する備品は、もう大体決まっております。それ以外の肝心の下の地盤改良工事を今工法も含めて、お金を含めて実施設計中でございますので、まだ確定はしてありませんが、その部

分は全面改良から部分改良することによって経費を約38%削減できるのではないかというのを今精査中でございます。

以上です。

- 読売新聞 あと、細かいところは個別で伺いますけれども、この点で要は活用法が具体的に考えられるより先にお金が出て来ているような感じがしていて、この順番についてどのように思われますか。まず、どのようにこの改修後のスタジアムを役立てるかということが先のような気がするんですけど。
- 市 長 まず、これまでのですね、駒場スタジアムについてはですね、さいたま市主催の行事とか、中体連、小体連あるいはサッカー協会、Jリーグ、Lリーグ、浦和レッズ、その他においてかなり利用されておりまして、さらに埼玉県陸上競技連盟からもですね、要望を受けていたりというような状況もある中でより一層活用ができると、こういうふうに思っておりますが。新たにですね、これらが改修できた場合にはですね、例えばですが、実業団陸上だとか、学生対抗陸上、実業団ナイター陸上、マスター陸上、関東中学陸上、中学生ジュニアオリンピック突破記録会、その他のですね、県内の公認競技場で行われている62の大会も行うことが可能になるということになります。
- 読売新聞 改修前よりも活発に利用できると。
- 市 長 そういうことです。
- 読売新聞 済みません、長々と。
- 埼玉新聞 太陽光発電について伺いたいんですけども、既にその補助金については一応締め切られてはいるかと思うんですけど、追加のご予定とかいうのはあるんでしょうか。
- 市 長 今年度中は、今のところ予定はしておりませんが、来年度引き続き行うという方針を持っております。
- 埼玉新聞 かなり申し込み数があったかと思うんですけども、市民の関心度について市長としてどのように。
- 市 長 非常に国の制度、県の制度とあわせてですね、大変補助率も高くなるということもあって、市民の皆さんにこの太陽光発電、クリーンエネルギーというものに対する関心も大変大きく寄せていただきましたので、これからのやはり地球温暖化対策、環境対策を行っていく上でも大変重要な施策の

一つだと思っておりますので、来年度も引き続き検討して、そういった制度をですね、つくっていききたいというふうに考えております。

- 埼玉新聞 来年度もやはり同等の額でという。
- 市長 規模については、もう少し増やしたほうがいいのか、同等になるのかは全体のバランス見ながら検討していききたいと思います。
- 読売新聞 その件ですが、せっかく反応がよくて、なのに8月いっぱいでもう締め切っちゃって、これから3月までないとなると、もったいないような気がするんですけど、急いで何とか補正つけちゃうとか、空白を少しでもというようなことはどうなんですか。考え方。
- 市長 現状としては、一たん枠はふやしたんだと。ですから、現状としては今年度もう一回ということはちょっと考えてはいないんですが。
- 読売新聞 不可能ですかね。
- 市長 状況を見ながらですね、検討していききたいと思います。今やはり新政権ができた状況で、ちょっと財政状況がですね、多少今不確定の部分も大分あるので、そういったことも踏まえながら、そういったものが可能であればですね、そういったことも含めて検討していききたいと思います。
- 埼玉新聞 話変わるんですけども、きょうから会見のレイアウトが変わりましたけど、きょうもうそろそろ終わると思うんですが、この新しいレイアウトについて一言感想。
- 市長 できるだけ皆さんにわかりやすくお伝えをしたいということもありましたし、なるべく余りかた苦しい形じゃなくて、より距離感を短く持っていきたい、幾つかの理由がありまして、こういう形にさせていただきました。まだまだ改善をしていかなくちゃいけないところもあるかと思うんですけど、また皆さんからもいろいろな、もうちょっとこういう形がいいんじゃないかとかというようなことも含めてですね、またご意見いただければ、なるべく皆さんにわかりやすく、また今インターネット放送もしていますのでね、見ている方にもわかりやすくこの記者会見を、理解していただきやすい形で進めて行きたいので、意見をお願いします。
- 埼玉新聞 以前の座っていたときに比べて記者対応はやりやすいですか。
- 市長 きょうで何回目ですかね。5回目ぐらいですかね。
- 事務局 そうですね。臨時入れて。

- 市長 5回ですか。記者会見に少しずつなれてきたというのもあると思いますけれど、以前よりは少しちょっと精神的な余裕はできたかもしれません。
- 読売新聞 済みません、何度も。せっかく駒場のことを伺ったので、もう一つのスタジアムの埼玉スタジアムの周りのこともこの機会に伺っておきたいんですけども、あそこのまちづくり、スタジアムに行くたびに、なかなか進まないものだなというふうに思っていて眺めているんですけども、またサッカープラザはむしろスタジアムの近くのほうがふさわしいのではといったような発言も以前にあったと思うんですが、それも含めてですね、浦和美園周辺のまちづくりということについて、市長はどのような問題意識をお持ちで、どんなふうに進めていきたいというお考えなのかということ伺いたい。
- 市長 そうですね。そういう意味では、今随時工事、事業を進めているわけですけども、今後の1つは地下鉄7号線ですね、延伸の問題という視点からですね、やはり浦和美園地区ですね、今後の経済性を高めるためには大変重要な場所でもございますから、それらの整備ができるだけスムーズにいくようにしていきたいという思いはございます。
 それから、もう一点の埼玉スタジアム周辺の地域ということですね、そういう意味では今既に集合住宅で住まわれている方はですね、浦和レッズのサッカー、埼玉スタジアムに近いというようなね、広告を見て、住まわれている方もかなりいるというふうに聞いておりますので、やはりサッカースタジアムというものを一つの核にしながらですね、スポーツだとか健康だとかというのも一つの切り口として、このまちづくりが行われていくという方向性というのはですね、非常に私自身もいい方向性ではないかというふうに考えておまして、そういったことも踏まえながら進めていきたいというふうに思っています。
- 読売新聞 もっとどんどん進めていくために何が必要ですかね。
- 市長 そうですね。今いろんな協議会をつくっていただいて、検討も進めていただいたりしておりますけども、1つはやっぱり、大きいのはやっぱり景気の状態がですね、かなり大きいかと思っておりますので、やはりその経済の回復というのが1つ大きな要因だろうというふうには思っているんですが、あわせてまちづくりに当たってもですね、将来ビジョンをもう少し、

さいたま市が持っている土地などもございますので、それらのそれぞれの活用についてもですね、検討を進めていくことが必要だとは思っています。

- 毎日新聞 新型インフルエンザなんですけども、先日初めて休校が、2学期になって初めての休校があって、学級閉鎖もすごい勢いで、ちょっとかなり急カーブでふえていっているような感じがあるんですけども、ちょっと取材すると、何か特別な対策はというと、以前からもたくさん指示を出していらっしゃるのを知っているんですけども、消毒液なんかを全員に、手をしないと教室に入れないとか、そういうことをするんですかと聞くと、やっぱり学校の予算があればそういうことをやりますというような話で、市全体としてという形ではなく、学校での判断みたいな形だったんですけども、これから10月とか冬になっていきまして、さらにひどくなると思うんですが、何かもう少し抜本的な対策みたいなのをとるような予定というのはお考えになっていないか、もしくはそういう必要性をどう考えていらっしゃるか。

- 市長 そうですね。非常に今ご案内のとおり新型インフルエンザですね、非常にふえてきて、学級閉鎖あるいは学校閉鎖もだんだんと出てきましたけども、今学校で行く前の体温検診を初めですね、いろんな対策を学校でもとっていただいていますし、また今9月の補正予算でも幾つかの新型インフルエンザ対策をやってはいるんですけども、基本的には今現状としては弱毒性のインフルエンザということでもあるので、それらの推移を見ながらですね、強化をしていく、より強化をしていくタイミングであるとか、そういったことは考えていかなくはいけないと思うんですが、今のところは少しそれらの状況も踏まえつつやっていくしかないのかなと。余り一時やっぱり過度に反応し過ぎてですね、いってしまったことが少し反省としてもありますので、状況に応じながら臨機応変に対応しようということで本部等でもですね、会議を行っておりますので、今後の推移を見守りながらですね、もっと抜本的に対策を講じなくはいけないという、12月以降、今後のことも少し想定をしながらですね、検討していきたいと思っておりますが、もう少しちょっと様子を見ていったほうがいいかなとは思っております。

- 読売新聞 ほかにどなたかありますか。

それでは、ないようですので、ありがとうございました。

- 進 行 以上をもちまして定例記者会見を終了させていただきます。大変ありがとうございました。

午後 3 時 2 4 分閉会